



令和7年度7月号 令和7年7月1日

上原だより

渋谷区立上原小学校
校長 佐伯 孝司

<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/1310240>

考え、実行し、振り返る…学年を超えた交流で育つもの

副校長 西村 綾乃

例年より2週間ほど早く水泳指導を始めましたが、暑さ指数が高く、水泳が中止になることもあります。地球温暖化が叫ばれて久しいですが、いよいよ日常生活にも影響を及ぼすようになったのを実感しています。このような環境を上手に乗りきることのできる力を身に付けていくことが、様々な困難に打ち勝



つ「生きる力」なのだと改めて考えさせられます。

上原小で開催された「あつい」行事「ふれあいフェスティバル」も大変な盛り上がりの中、幕を閉じました。迷路、魚釣り、お化け屋敷…学級で話し合い、お店の内容を決め、準備して当日を迎えます。子供たちは全力で楽しみますが、この活動を経験させることの教育的意義についても大きなものがあります。

- ① 主体的に計画し、自主的な運営を児童が行い、協力して取り組む。そして、めあてと振り返りにより次の行動や活動につなげる。
- ② 活動を通して、児童同士が積極的にコミュニケーションを取り、学校全体の活気や一体感を感じられるようにする。（相手意識の醸成、優しい言葉による交流）

さて、実際はどうだったのでしょうか。

子供たちは自分たちの思い描くお店を実現させようと工夫を凝らします。しかし、何をしてもよいわけではありません。人権への配慮、安全についての配慮、下学年への配慮、そしてフェスティバル後の片付けへの配慮など。そして「みんなが楽しむために」という「めあて」によって行動決定していくことが大切です。準備する中で時には方向修正をしたり、新たな方法を考え出したり、緩やかな「きまり」の中で自分たちのアイデアをどのように実現させるかを考え、試行錯誤しながら準備する姿が見られました。これは、シブヤ未来科の学習の流れとも共通しています。ゴールイメージを設定し、そこに到達するための方法を見通しをもって設定し、試してみる。やってみてうまくいかないところを修正し、ゴールに向かって進んでいく。正にPDCAサイクルです。最終ゴールにたどり着いた子供たちは、達成感・成就感を味わい、他者からの肯定的な評価を受けることで更に自己肯定感を育み、次への意欲を漲らせていきます。以下の感想は1年生からのメッセージです。



- ・みんなもたのしかった、自分も楽しかった、優しかったよ。
 - ・作品が上手だったよ。やりたいよー！
 - ・上原のみんながもりあがるお店を開いてくれてありがとう。
 - ・遊んだことのないものでもこつを教えてくれたり、「すごいね」と言ってくれたりしてありがとうね。
 - ・おにいさん、おねえさんが優しかった❤️ありがとうございました。
- 来年を楽しみにする児童の姿こそ、この活動の「めあて」が達成された証と言えるでしょう。

